

# 安全で快適な生活をするため

美しい自然を保護し、生活の場と生産の場を分離し、高度な都市施設が整備され、だれでもが住みたくなる生活都市をめざします。

## 都市基盤の建設

■土地利用 用途地域、農振地域の秩序ある編成、住工混在を純化するなどして自然保護、職住分離を原則とした合理的な利用を進めます。

■郷土の保全 両河川の安全度向上のため、河道の拡幅、蛇行の修正、護岸施設などの整備をはかり、改修事業の早期完成と、地盤沈下対策については、地下水くみ上げの規制を強化し、関係施設の復旧をめざします。

■道路 国道の拡幅、諏訪木、白井、茨倉根バイパスの完成につとめます。市道は、積極的に整備し、舗装率五〇％が目標です。

## 生活環境の整備

■公園・緑地 児童遊園、児童公園、農村公園、運動公園、庭園公園を計画的に整備し、六十年には、市民一人当たりの公園面積を二平方メートル（五十年現在は〇・六四平方メートル）とします。なお、公園条例を制定し管理体制の確立につとめます。

## 市道の整備に努力

■国道 道路体系の中心国道は、交通量の増加と車両の大型化で、拡幅整備が急がれます。現在、国で調査を進めていますが、早く実現するよう要望していきます。

■市道 市内の市道は十二路線。そのうち未舗装は、白根・亀田線の一部約千四百メートルを残すだけとなりました。この完了をめざします。

また、すでに舗装済みの市道についても交通需要の状況をみて、二次改修およびバイパスの設置をめざします。

■市道 現在、市道延長は二百五十六キロメートル。一日も早くデポポ道を解消——といっても大へんな仕事です。

単独事業はもちろん、あらゆる制度を活用してせいぜいばい力をそそぎます。これらの事業費として二億二千七百九十二万円です。

## 東町に児童公園

都市化現象が急激に進む中で市街地での都市環境の整備は、急がなければならない大切なものです。事業としては……

■都市下水路の整備 水害地域の解消をめざし、昨年度に引き続き水路の改修を進めます。本年度分一億六千七百四十万円。

## ■街路事業

道路改良工事として進めている、みのりから富月橋のバイパス線につながる古川・諏訪木線の継続実施はもちろん、新しく鯉淵・古川線も着手する予定。これらを合わせて四百七十万円です。

## ■公園整備

四ツ野児童公園は、もうすぐ完成です。今年度も、整備計画に基づいて東町内に児童公園を新設。それと公園条例を制



子どもたちのために、今年も東町内に児童公園が

定し、管理に万全を期します。

## 公害分析

### 試験室を設置

■中之口川、信濃川にかこまれた特殊な地形から、河川の安全対策も大事です。

市民の生命財産を守るため、沿岸市町村とも連携をとりながら、治水事業の促進を図、県に働きかけていきます。そのためには、皆さんの理解と協力も必要と思います。

■地盤沈下対策事業は市としても最も大きな事業です。すでにこれまで百億円余りの巨費が投じられていますが、なお多くの事業がまだ残されています。土

地改良区とともに、この完成のため、最大の努力をしていきます。

## 公害分析

### 試験室を設置

■交通事故は、皆さんの協力で年々減っています。これをさらに伸ばすため、安全施設の整備や安全思想の普及につとめます

■公害監視の強化を——独立した分析試験室を設け、水質の調査や分析、騒音の測定などを行います。また、防止事業資金の貸し付けも引き続き実施します

■地域環境の保全を図るため、これまで以上に油剤、乳剤の無償配布を行い、地域共同による組織的な薬剤散布を実施。害虫の発生源をつくらないようにします。



下水路整備事業も急ピッチ

円です。

## おもな予算額

- 土木費 六億六、二一九万円
- ▽道路橋梁費 二億九、六一四万円
- 道路維持費 一、二九三万円
- 道路新設改良費 二億三、六三四万円
- 雪害対策費 一、三二七万円
- ▽都市計画費 二億四、四七〇万円
- 下水路整備事業 一億六、〇七三万円
- 公園整備事業 二、五八五万円
- 街路整備事業 四、六八一万円
- ▽住宅費 九、五三二万円
- 市営住宅建設事業 九、三八三万円
- 消防費 一億 五一六万円
- 常備消防費 六、五二八万円
- 非常備消防費 二、一一八万円
- 施設費 一、七八三万円
- 総務費 四億六、一〇二万円
- ▽総務管理費 三億 七〇二万円
- 交通安全対策費 一、三二九万円
- 衛生費 一億六、八三一万円
- ▽保健衛生費 七、六四九万円
- 公害対策費 一、二五七万円
- 環境衛生費 一、三三四万円

## 市営住宅を増設

所得の少ない人のために、鯉淵市営住宅の近くに、新しく住宅を十二戸建てます。用地の購入をふくめ、九千三百八十三万

優先とします。

広域消防への負担金六千五百二十八万円のはかは、おもに消防団関係費で、小型ポンプを三台購入するほか、防火水槽、消火栓をふやします。